

令和5年度 大江小学校経営計画

【学校の教育目標】
強く正しく生きる大江の子
 ・よく考える子
 ・はげまし合う子
 ・進んできたえる子

【願う学校像】 **子どもの生きる力と自己有用感を育む学校**
 ～未来につなごう！自信と誇り、夢と希望～
 ◎じっくり考え、正しく判断し、意欲的に学べる子
 ◎人を思いやる心と自己有用感を育む子
 ◎健康で安全な習慣を身に付け、心身を丈夫にする子

	よく考える子	はげまし合う子	進んできたえる子
重点目標	◎ 思考力、判断力の向上 国語科を軸として、「考えの形成」を促す指導を工夫する。 ◎ ICTを活用した学習の充実 ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びを通して、学力の向上を図る。 【ぐんぐん学習】	◎ 人を思いやる言動の習慣化 元気で明るい挨拶と相手の立場に立った言動、よさ見付けを習慣づける。 ◎ 自己有用感を育む係活動 個々の児童の役割を明確にした児童会や学級の活動の充実を図る。 【あやの花さく大江小】 (あいさつ・ほかほか言動・係活動)	◎ 仲間と共に進んで鍛える子の育成 異年齢集団での運動や活動に意欲的に取り組み、自ら進んで心と体を鍛える。 ◎ 健やかな心と体の成長を促す環境づくり 生徒指導体制の充実と家庭と連携した生活習慣づくりを推進し、心身の成長を促す。 【もくもく掃除・どんどん元気】
組織	研究推進委員会（研究主任） 学習指導部会（教務主任）	特活指導部会（児童会担当） 学習指導部会（人権担当）	生活指導部会（生徒指導主事） 健康安全指導部（保健主事、養護教諭）
具体的な方策	◎ 「考えの形成」を促す授業 ・単元における「考えの形成」の場と指標の明確化 ・単位時間におけるまとめの位置づけ ・学びが自覚できる対話的活動と振り返りの工夫 ◎ ICTを活用した主体的な学習の充実 ・道具として活用するICT端末 ・大江タイムでのICT（キュビナ、e-library）の活用、主体的な読書活動・学習の見届け ・ICTを活用した家庭における読書活動、学習の充実	◎ 相手の立場に立って考える活動の推進 ・「返される挨拶」の取組 ・「あやの花さく大江小」の取組 ◎ 仲間の「役にたてた」「働きかけができた」といえる係活動の推進 ・一人一人がリーダーとして活躍（主として高学年） ・係活動の充実（主として中学年） ・当番活動の徹底（主として低学年） ・自分自身の良さ見つけ（係活動等で頑張る自分）	◎ 心と体を育む異年齢集団活動の推進 ・なかよしタイムの活動（なかよし遊び・運動） ・もくもく掃除、なかよしボランティアの充実 ・通学班による安全な登下校 ◎ 健康な心と体づくり ・生徒指導交流、あのね相談、あのねアンケート、あのねボックス、 ・日常観察による積極的な教育相談 ・家庭と連携した生活習慣づくり
指標	・授業中、課題を意識して、進んで学習に取り組んだ。 ・学習では、自分の考えを伝えたり、まとめたりできた。 ・ク롬ブックを授業や家庭学習、読書で活用できた。	・挨拶やよいところ見つけをする心が育っている。 ・仲間を大切に思い、いじめをしないという意識が育っている。 ・係や委員会の仕事に進んで取り組むことで自己有用感を感じている。	・「なかよし班」での遊び、運動、清掃・奉仕活動等の活動に進んで取り組んだ。 ・困ったときや悩みを先生や家族等に相談できる。 ・「早寝早起き朝ご飯」等、規則正しい生活を送ろうと心がけている。
重点目標	地域に関かれ信頼される学校 地域との協働を通じた体験的活動の充実を図り、ふるさとのよさを実感し、学校統合後へと繋がる地域・学校への誇りと希望を育む。		働き方改革と業務改善 教師が子どもたちに関わる心のゆとりを確保し、教育の資質向上を目指すための業務改善を推進する。
具体的な方策	◎ 地域の人材や施設、活動などの教育力の積極的な活用とカリキュラムマネジメント ・地域と協働した豊かな体験活動の充実（大江ふるさと学習） ・ふるさとの歴史・伝統の理解と文化的活動の継承（治水神社大祭等） ・学校統合を見据えた「大江つなぐプロジェクト」の実施（他校との合同授業、創立150周年・閉校記念行事） ◎ ICTの効果的な活用 ・ク롬ブック（キュビナ、e-library等）を活用した学びの発信 ・学校HPの効果的な活用と「すぐーる」での迅速なメール配信やアンケート機能による情報収集等		◎ 信頼される教師集団づくり ・子どもたちに寄り添い見守りながら、子どもたちのよさを見つけ、積極的に認め励まし自己肯定感を育む教師 ・声掛け合いと共通理解を図り、協働・連携できる教師 ・見直しある計画的な提案と、PDCAサイクルによる見直しと改善に主体的に取り組む教師
指標	・地域で進んで挨拶、地域の行事に進んで参加できた。 ・ふるさとを大切にしよう活動できた。 ・ICTの活用による適切で迅速な情報発信ができた。		・子どものよさを見つけて、積極的に声を掛けた。 ・主体的な提案、教職員の共通理解・協働による効果的な教育活動が実施できた。